氏　　名	家 門 裕 子
学 位 の 種 類	博 士 （医 学）
学 位 記 番 号	博 士 第５８４号
学位授与の要件	学位規則第４条第１項該当
学位授与年月日	平成２１年　3月２５日
学 位 論 文 題 目	Marital Status and Cardiovascular Risk Factors among Middle-aged Japanese Male Workers: The High-risk and Population Strategy for Occupational Health Promotion (HIPOP-OHP)Study (日本人中年男性勤務者における婚姻状況と循環器疾患危険因子の関連：HIPOP-OHP 研究)
審　査　委　員	主査　教授　　三ツ浪　健　一
	副査　教授　　平　　英　美
	副査　教授　　永　田　　啓

別紙様式３

論 文 内 容 要 旨

※整理番号	589	氏（ふりがな）名	家門（かもん） 裕子（ゆうこ）
学位論文題目	Marital Status and Cardiovascular Risk Factors among Middle-aged Japanese Male Workers: The High-risk and Population Strategy for Occupational Health Promotion (HIPOP-OHP) study （日本人中年男性勤務者における婚姻状況と循環器疾患危険因子の関連：HIPOP-OHP 研究）		

【目的】欧米諸国では、婚姻状況が循環器疾患危険因子と関連することを示す多くの報告がある。それらの多くは、未婚者が既婚者に比べて全死亡や循環器疾患死亡が多く、また循環器疾患危険因子も悪いことを示している。しかし、日本をはじめ欧米以外の人口集団においては、この関連を研究した報告はきわめて少ない。また、近年日本人の婚姻状況は変化し、中年男性において未婚者の割合が増加している（国勢調査の結果では、40 から 59 歳男性における未婚者の割合は、1980 年は 4.3%であったが、2000 年は 12.2%に増加していた。）。同様の傾向が他のアジア諸国でも見られる。そこで本研究では、日本人中年男性の婚姻状況と生活習慣および循環器疾患危険因子の関連を検討した。

【方法】対象は、HIPOP-OHP 研究のベースライン調査に参加した全国 12 事業所の勤務者 7,346 名のうち、40～59 歳男性で、問診調査や循環器疾患危険因子のデータに欠損がなく、空腹時採血を行った 1,589 人とした。この対象者を、婚姻状況により「既婚群」1,419 人（平均年齢 47.9±5.1 歳）、「未婚群」163 人（46.7±4.3 歳）、「離婚群」5 人、「死別群」2 人の４群に分類した。このうちサンプル数が少ない「離婚群」と「死別群」を除外し、「既婚群」と「未婚群」の２群について、生活習慣と循環器疾患危険因子を比較検討した。

【結果】生活習慣については、「未婚群」は「既婚群」に比べ、交替勤務者の割合が多く（未婚群：既婚群＝28.8％：20.6％、p＝0.02）、週 5～６回以上朝食を食べる人の割合が少なく（67.5％：87.0％、p＜0.01）、運動をしている人の割合が少なかった（51.5％：66.9％、p＜0.01）。循環器疾患危険因子については、喫煙率が「未婚群」が「既婚群」に比べ有意に高く（58.9％：52.3％、p＝0.02）、年齢を調整した BMI（Body Mass Index）（23.6±0.2：23.2±0.1、p＝0.048）、拡張期血圧（78.4±0.9mmHg：75.8±0.3mmHg、p＝0.01）、

（備考）１．論文内容要旨は、研究の目的・方法・結果・考察・結論の順に記載し、２千字程度でタイプ等で印字すること。
２．※印の欄には記入しないこと。

（続　紙）

総コレステロール（210.3±2.5mg/dl：202.5±0.9mg/dl、p＜0.01）、空腹時血糖（101.8±1.6mg/dl：98.1±0.5mg/dl、p＝0.03）が有意に高値であった。

喫煙、高コレステロール血症、高血糖、高血圧の４つの危険因子のうち２つ以上を有する割合も「未婚群」が高く（40.5％：27.8％、p＜0.01）、３つ以上を有する割合も高かった（12.9％：5.0％、p＜0.01）。

同居者の有無が婚姻状況の重要な交絡因子になると考え、同居者の有無で層別して「既婚群」と「未婚群」の循環器疾患危険因子を比較した。同居者がある層では、「未婚群」は「既婚群」に比較し、BMI、収縮期血圧、拡張期血圧、血糖値が有意に高値であった（各 p＝0.01、0.03、0.03、＜0.01）が、同居者がない層では、両群の各項目に有意差を認めなかった。

「未婚群」が循環器疾患危険因子を 2 つ以上有する場合の年齢調整オッズ比（95％信頼区間）は 1.94（1.38－2.72）で、3 つ以上有する場合は 3.05（1.08－5.14）であった。同居者がある層では、2 つ以上の場合が 1.75（1.09－2.81）、3 つ以上の場合が 2.73（1.30－5.75）であったのに対し、同居者がない層では、それぞれ 1.25（0.61－2.56）、1.85（0.60－5.69）と有意差を認めなかった。

【考察】欧米においては、未婚者が既婚者と比較して、全死亡、循環器疾患死亡とも多いという報告が多数ある。日本においても、同様の結果を示した研究が２つ確認された。これは、未婚者は既婚者に比べ、社会的サポートが不足しがちであること、健康を維持しようというモチベーションが維持しにくいことが一因となっている可能性がある。その結果、健康を維持する上でよりよい生活習慣を保ちにくいということになり、循環器疾患危険因子の悪化を招くのではないか。本研究の結果でも、未婚群が既婚群に比べ、よい生活習慣を持つ人の割合が低く、循環器疾患危険因子が悪く、複数の危険因子を持つ人の割合も多かった。また、この結果は同居者がいる場合にのみ認められた。

【結論】本研究より、未婚の日本人中年男性はよい生活習慣を持つ人が少なく、循環器疾患危険因子も悪く、危険因子が集積することがわかった。さらに、婚姻による生活習慣と循環器疾患危険因子に対する良い影響は、同居者がいる場合に限ることもわかった。この結果から、日本人男性においても、婚姻状況が生活習慣や循環器疾患危険因子に影響している可能性があると考えられる。また近年増加傾向にある中年男性未婚者は、循環器疾患の高リスク群に属する可能性があるので、このグループのさらなる研究と、生活習慣についての教育が必要であると考える。

別紙様式８（課程・論文博士共用）

学位論文審査の結果の要旨

整理番号	589	氏名	家門　裕子
論文審査委員			

（学位論文審査の結果の要旨）

欧米では婚姻状況と循環器疾患の関連を示す多くの報告がある。日本にも２つの報告があるが、いずれも婚姻状況と循環器疾患死亡との関連を示すもので、危険因子との関連は検討されていない。本研究は、日本人男性における婚姻状況と循環器疾患危険因子の関連について明らかにするため、日本人勤務者を対象としたHIPOP-OHP研究参加者のうち40～59歳男性を「既婚群」と「未婚群」に分類し、生活習慣と循環器疾患危険因子を比較検討したものである。

その結果、日本人中年男性においても未婚群は既婚群より健康上好ましくない生活習慣を持つ人が多く、循環器疾患危険因子も悪く、危険因子が集積することが示された。

本研究は、日本人においても婚姻状況が生活習慣や循環器疾患危険因子と関連があることを明らかにし、循環器疾患予防を考える上で有用なデータを示したものであり、博士（医学）の学位を授与するに値するものと認められる。

なお、本学位授与申請者は、平成21年２月４日実施の論文内容とそれに関した試問を受け、合格と認められたものである。

（平成　21　年　2　月　4　日）